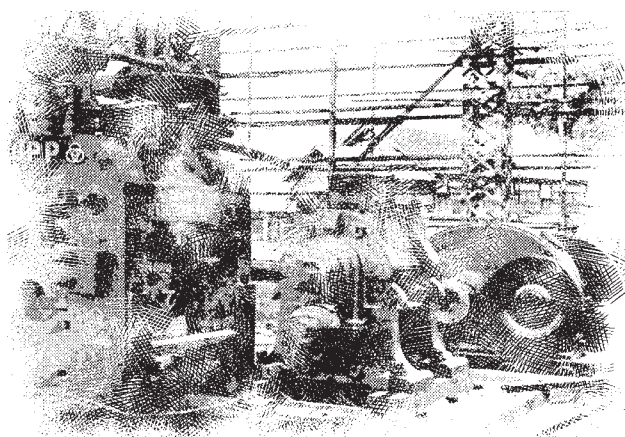


## 第2章

### 岩井商店

新たな単独セルロイド工場の設立と  
鉄板事業への挑戦



岩井商店でも  
大戦勃発をうけ  
新たな挑戦が  
はじまろうと  
していた



欧州で大戦か……  
これで欧州に依存  
していた物資の  
輸入は止まる



これを機に  
日本も自活を  
考えねばならぬ  
必要なものは  
自分たちで  
作らねば……

勝次郎社長  
日本セルロイド  
人造絹糸のことで  
ご報告です



生産は  
順調か？



はい  
生産自体は  
ただ、三井の  
堺セルロイドも  
生産が順調で  
我々も含めると  
国内需要を上回って  
しまっています



採算面の問題が  
生じているわけだな  
だが  
セルロイド業界には  
大きな波が来るぞ  
……  
それがいいかは  
分からないがな  
……



……

岩井勝次郎は  
独自の経営哲学を持ち  
禅の思想にも共鳴する  
ところがあつた



特に座禅には  
真摯に取り組み  
一日三時間に及ぶ  
こともあつた

社長っ!!

お静かに  
岩井さんは  
座禅中です

しかしっ  
三時間も待てない  
ですよおん

……どうした  
そろそろ来たか?

!! は、はいっ  
ロシアの  
ゲルモニウス少佐が  
工場を視察に……

セルロイドは  
硝化綿  
(ニトロセルロース)  
と樟脳が原料だ  
つまり  
爆薬原料にもなる  
欧州のセルロイド  
メーカーもことごとく  
軍用に転換された

なるほど  
我々にも  
そういう  
需要が回って  
きたと……





こうして兵庫県網干にある  
日本セルロイド人造絹糸は  
一時的に爆薬工場に転換され  
軍から経営者を招き入れた



ロシアは  
連合国側で参戦している  
英国と異なり同盟は  
結んでいないが  
協力はしなければならぬ  
彼らと政府の要請に従え  
ただし……

はいっ  
そこは心得て  
おります



鈴木商店の  
金子さんは  
セルロイドより  
人造絹糸の研究に  
熱心だから何も  
言わんだろうな……



この頃  
欧州のセルロイド工場が  
のきなみ軍事転換され  
日本には民生用の  
セルロイド生地注文が  
大量に入ってきた

諸君！  
私の本音は別にある

セルロイド、  
プラスチックの  
重要性は変わらない

このたび私は  
日本セルロイド  
人造絹糸の取締役を  
辞任し……



おおーっ！



岩井単独で  
セルロイドを  
生産する

ついては  
あまがさき 尼崎の神崎に  
かんざき 広大な土地を  
購入した！

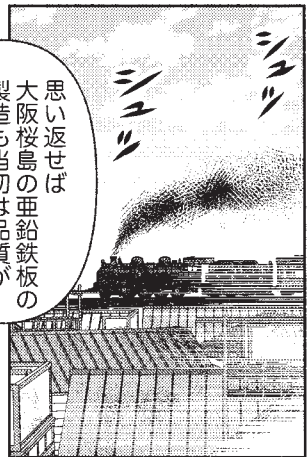


大正五(一九一六)年  
セルロイド生産を  
目的にした  
「大阪繊維工業」  
(現・ダイセル神崎工場)  
が誕生する



思い返せば  
大阪桜島の亜鉛鉄板の  
製造も当初は品質が  
向上せず苦しい  
経営だった

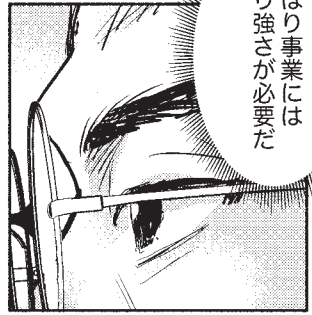
しかし  
鉄道沿線にある  
建物の屋根を  
不燃性にするよう  
屋上制限令が  
出たからは  
注文が増え今では  
工場も拡大した  
……



やはり事業には  
粘り強さが必要だ



勝次郎社長  
大変です!



慌てるな  
需要はある

しかし  
輸入が滞れば  
需要に  
応えられない  
ではないですか

これは  
いい機会だ

ええ!?



大戦の影響で  
亜鉛鉄板の米英からの  
輸入が滞り始めました  
このままでは年間  
五万トンが消し飛びます!



岩井社長は  
本当に動じない  
お人だ……



海外依存という  
構造をひっくり返すんだ  
新工場を建設する  
人材を探すぞ

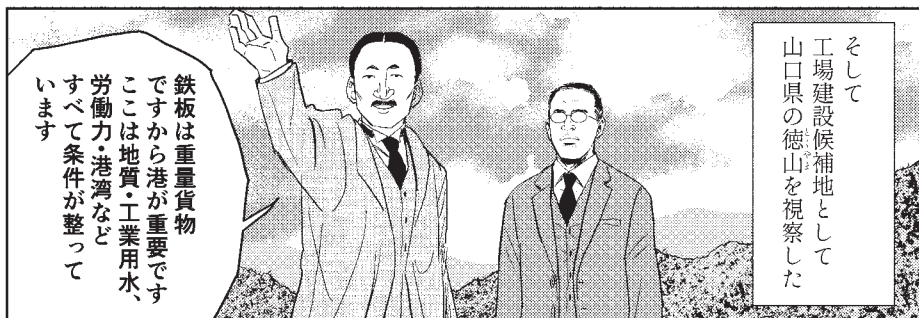




岩井勝次郎は  
米國留學を終えたばかりで  
大阪工高の教諭であった  
友田一太を岩井商店に  
招き入れた



ふむ  
この友田という  
人物がよいだろう



鉄板は重量貨物  
ですから港が重要です  
ここは地質・工業用水、  
労働力・港湾など  
すべて条件が整って  
います

そして  
工場建設候補地として  
山口県の徳山を視察した



さすがは金子さんや  
この徳山の地の利を  
よく理解されている



鈴木商店が何やら  
企んでいるらしいですぞ  
東洋最大の煙突を  
つくるらしいですわ

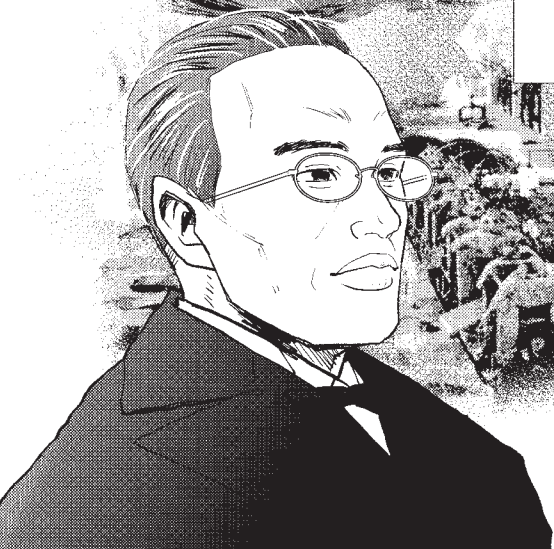
ん？  
あの煙突はなんだ




よし  
この徳山に  
工場を作ろう

大正五（一九一六）年  
薄鋼板圧延を製造するため  
亜鉛鍍株式会社  
徳山分工場の建設が決定  
（後の日新製鋼、現・日本製鉄）

翌年には  
大阪鉄板製造株式会社に  
商号を変更し  
取締役であった岩井勝次郎は  
社長に就任した







昭和三〇（一九五五）年に  
徳山工場に建立された  
頌徳碑には左のように  
刻まれている

勝次郎氏は大阪の貿易商人として  
常に独立独歩して権勢におもねらず、  
東都の政商と対抗して関西の純商人の面目を発揮し  
我国産業の発展に大きな足跡を残した偉人である。  
商人でありながら日本の黎明に早くも  
将来の工業の出現を先見し、鉄鋼、化学、  
繊維等幾多の工業会社を創設した。

遠く明治四三年、当時は専ら輸入に仰いでいた  
亜鉛鉄板の製造を始めるために  
大阪鉄板製造株式会社を興し、

大正七年にはその原料たる薄鉄板の製造を企てて  
分工場を此の地に選んで建設した。

この薄鉄板は当時としては僅かに官営八幡製鉄所に  
於いて試験的に製作されていたのみであり、

全く前人未到の大事業であった。

実に今日日本の盛大な薄鉄板製造事業の歴史は  
この地に肇まったと称しても過言ではない

岩井勝次郎は  
有識者・学者に敬意を払い  
また社員の絆も重視  
していた

そういえば最近  
勝次郎社長は  
東京帝国大学の田中助教と  
会ってるらしいんですわ

彼はなんと  
わずか三〇歳なんですわ  
大丈夫なんでしょうか？

なんとも  
勝次郎さんらしいな  
あの人は謙虚だから  
日本の製造業に  
必要な技術がなにか  
欧米の最新技術を熱心に  
学んでいるんだ

